

令和6年3月28日
管理課業務担当

第34回芝浦食肉衛生検査所調査研究発表会を開催しました

3月8日（金曜日）、芝浦食肉衛生検査所では、市場会議室において「第34回芝浦食肉衛生検査所調査研究発表会」を開催しました。今年度も集合形式及びWeb配信の併用開催とし、計58名（うち、Web参加36名）の参加がありました。

当所では食肉の安全の確保を図るため、日々の検査業務から得られる知見を基に、牛や豚の疾病診断や食肉検査方法に関する様々な調査研究を行っており、毎年度末にその成果を発表しています。

今年度は、令和4年度に保留となった牛伝染性リンパ腫の疫学解析、豚腎病変と血液生化学検査の相関について、成牛に認められた非定型牛伝染性リンパ腫（散発性）の一例、と畜場に搬入された豚の *Escherichia albertii* 保有状況及び分離株の解析、牛のと畜検査におけるデジタル教材作成の試み及び牛肝臓及び胆汁から検出された *Campylobacter jejuni* の遺伝子型別試験及び薬剤感受性試験の6題の口頭発表と7題の誌上発表を行いました。

健康安全研究センターの助言者の先生方には「珍しい症例であり、大変学術的な価値のある発表である。」、「牛から分離株された菌株は鶏から分離されたものとは遺伝子型別が異なっており大変興味深い。」等の励みとなる講評や「ミクロ病理やマイコプラズマ性疾患との関係性を突き詰めていくと、より面白い考察になるのではないか。」等の具体的な助言をいただきました。

今後も、食肉の衛生検査を確実に実施するとともに、調査研究の成果を事業者や消費者に情報発信し、公衆衛生の向上に一層寄与していきます。